

交流と自治体間連携で、豊かで活力ある地域社会を目指します

杉並区は、平成元年に北海道名寄市（旧風連町）と「交流自治体協定」、群馬県東吾妻町（旧吾妻町）と「友好自治体協定」を締結し、国内における自治体間の交流を始めました。現在では、日常の交流を基礎に災害時の支援を行う「災害時相互援助協定」を締結した自治体を含め、国内で10自治体まで増加し交流を進めてきたほか、海外3都市とも交流を深めてきました。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災の際には、被災した福島県南相馬市に対し、杉並区と他の交流自治体が一丸となり支援物資や義援金、避難場所の提供、継続的な人的支援などを行いました。

こうした基礎自治体の主体的な被災地支援をきっかけに、国や都道府県の支援を待つのではなく、基礎自治体自らが連携して取り組む水平的支援の重要性が注目されるようになり、災害対策基本法の見直しにつながりました。その前提として、有事の際にこうした相互支援が迅速に機能するためには、平常時においてそれぞれの自治体が顔の見える関係を継続していくことが、何よりも大切だと考えています。

このことから区では、交流自治体への阿波おどり団の派遣や子どもたちによる相互交流、区内での交流自治体の物産展や観光展の開催など、行政間に限らず住民同士、団体同士によるさまざまな分野での交流を進めています。

都市と地方の自治体同士の交流と連携は、災害時の相互支援だけにとどまらず、双方の地域の活性化につながり、互いが持つ地域特性を生かすことでそれぞれの地域課題の解決へ取り組む“共存共栄”の関係を築くことができると考えています。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、人との接触や移動の制限を余儀なくされている現在、あらためて人と人との触れ合う交流の大切さを実感しています。

自治体間交流が始まって30年以上が経過した今日、地域経済の活性化や新しい暮らし方に向けた更なる交流の発展を願っております。

杉並区長

田中良



杉並区の自治体交流の歩み

| | | | |
|---------|--------|-----------|--|
| 平成 元年 | 1989 年 | 7 月 13 日 | 北海道風連町（現名寄市）と「交流自治体協定」締結 |
| | | 8 月 6 日 | 群馬県吾妻町（現東吾妻町）と「友好自治体協定」締結 |
| 平成 2 年 | 1990 年 | 5 月 11 日 | オーストラリア連邦ニューサウスウェールズ州ウィロビー市と「友好都市協定」締結 |
| 平成 3 年 | 1991 年 | 12 月 9 日 | 大韓民国ソウル特別市瑞草区と「友好都市協定」締結 |
| 平成 7 年 | 1995 年 | 10 月 14 日 | 北海道風連町（現名寄市）及び群馬県吾妻町（現東吾妻町）と「防災相互援助協定」締結 |
| 平成 16 年 | 2004 年 | 5 月 12 日 | 新潟県小千谷市と「災害時相互援助協定」締結 |
| | | 11 月 1 日 | 福島県北塩原村と「まるごと保養地協定」締結 |
| 平成 17 年 | 2005 年 | 5 月 27 日 | 福島県原町市（現南相馬市）と「災害時相互援助協定」締結 |
| 平成 18 年 | 2006 年 | 6 月 6 日 | 市町村合併により北海道名寄市と「交流自治体協定」を再締結 |
| | | 7 月 1 日 | 市町村合併により北海道名寄市と「防災相互援助協定」を再締結 |
| | | 8 月 26 日 | 市町村合併により群馬県東吾妻町と「友好自治体協定」を再締結 |
| | | 10 月 10 日 | 市町村合併により群馬県東吾妻町と「防災相互援助協定」を再締結 |
| 平成 19 年 | 2007 年 | 2 月 19 日 | 市町村合併により福島県南相馬市と「災害時相互援助協定」を再締結 |
| 平成 21 年 | 2009 年 | 5 月 21 日 | 東京都青梅市と「交流に関する協定」締結 |
| 平成 23 年 | 2011 年 | 8 月 28 日 | 東京都青梅市と「災害時相互援助協定」締結 |
| | | 12 月 20 日 | 東京都武蔵野市と「災害時相互協力協定」締結 |
| 平成 24 年 | 2012 年 | 2 月 25 日 | 福島県北塩原村と「災害時相互援助協定」締結 |
| | | 8 月 27 日 | 山梨県忍野村と「災害時相互援助協定」締結 |
| | | 9 月 14 日 | 静岡県南伊豆町と「災害時相互援助協定」締結 |
| 平成 25 年 | 2013 年 | 7 月 26 日 | 杉並区と小笠原村との「子ども自然体験交流事業推進宣言」を取り交わす |
| | | 12 月 28 日 | 台湾政府教育部体育署及び台北市教育局等と「青少年の夢を育む交流事業推進宣言」を取り交わす |
| 平成 26 年 | 2014 年 | 12 月 11 日 | 自治体間連携による特別養護老人ホーム整備に係る基本合意書を南伊豆町及び静岡県と取り交わす |
| 平成 27 年 | 2015 年 | 4 月 26 日 | 国立台湾戯曲学院と「文化・芸術の相互交流推進宣言」を取り交わす |

国内の 交流

杉並区では、各地域の文化や特性を理解するとともに、互いに顔の見える関係づくりを目指して、自治体間交流を推進しています。

自治体間交流は昭和 63 年策定の杉並区基本構想の中で計画化されました。現在では、自然体験や物産販売だけでなく、観光、文化、スポーツの発展から、行政課題の解決まで、裾野を広げています。

広域的な災害対策の展開



区民の義援金で人工芝化された南相馬市内の幼稚園庭

区では、阪神・淡路大震災の教訓を踏まえ、円滑な応援体制の整備のため、災害時相互援助協定の締結と交流を進めてきました。

この協定に基づき、平成 16 年 10 月 23 日の新潟県中越地震発生後は同県小千谷市を支援。平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災で被災した福島県南相馬市には、発災直後から現在まで支援を続けています。

恒常的な情報交換と連携体制



弓ヶ浜（南伊豆町）で手をつなぐ首長等

杉並区と国内の 8 交流自治体が一堂に会し、各自治体の抱える課題の共有と達成に向け、今後の連携の在り方を協議するため、平成 27 年から地方創生・交流自治体連携フォーラムを各地で開催しています。

区民が身近に感じられる交流自治体



北塩原村物産展でにぎわう西棟玄関前

年間を通じて、区役所で各自治体の物産展や観光写真展が開催されており、多くの方々に楽しまれています。また、区では平成 28 年から、“食”を通じた交流自治体の PR を支援しています。区内の飲食店イベントや市場、地域活動などに各自治体の農産物が活用されています。

地方の地域資源を活用した豊かな暮らしづくり



簡易宿泊施設付きの滞在型農園（小千谷市）

区では、地方との連携により、豊かな暮らしをつくることを「杉並区まち・ひと・しごと創生総合戦略」（平成 31 年 2 月改定）における基本目標の 1 つに位置付けています。地方の地域資源を生かし、区民に様々な体験や住まい方・暮らし方の選択肢などを提供し、豊かな暮らしづくりに取り組んでいます。



北海道名寄市



◆面積：535.20km²

◆人口：27,009人（令和3年2月28日現在）

◆交流の始まり：豊かな自然に恵まれ、杉並ではできない自然体験や異なる伝統芸能・文化の交流を行い、双方の発展を図るため協定を締結しました。

◆名産品：もち米「はくちょうもち」、アスパラ

◆観光スポット・イベント：ひまわり畑、市立天文台きたすばる、なよろ雪質日本一フェスティバル



群馬県東吾妻町



◆面積：253.91km²

◆人口：13,216人（令和3年3月1日現在）

◆交流の始まり：杉並から日帰りできる農山村として、区民の心を潤す第二の故郷づくりと住民同士の交流を期待し、協定を締結しました。

◆名産品：ニジマス「ギンヒカリ」、こんにゃく

◆観光スポット・イベント：吾妻峡、箱島湧水、岩櫃城跡、浅間隠温泉郷、東吾妻ふるさと祭



杉並区との主な交流

◇移動天文台車「ポラリスⅡ」による観望会

名寄市から移動天文台車を迎え、区内小学校やすぎなみフェスタで特殊レンズを用いた太陽観測や天文台技師解説の星空観望会を行っています。

◇住民向け自治体訪問ツアー

交流自治体協定30周年を記念して、令和元年に両自治体の住民を対象としたツアーをそれぞれの地域で行いました。市内では、北国博物館を見学し、ご当地グルメ「煮込みジンギスカン」に舌鼓を打ちました。区内では、阿佐谷ジャズストリートを見学しました。

◇小学生名寄自然体験交流事業

毎年12月下旬の3日間、区内の児童が名寄を訪れ、杉並にはない厳しい寒さや豊かな自然との触れ合いを通じた学習を行っています。スノーシュートレッキングや市立天文台での天体観測、旭山動物園の見学などを行っています。



スノーシュートレッキングの様子

平成元年（1989）7月13日旧風連町と「交流自治体協定」締結
[平成18年（2006）6月6日市町村合併で名寄市として再締結]
平成7年（1995）10月14日旧風連町と「防災相互援助協定」締結
[平成18年（2006）7月1日市町村合併で名寄市として再締結]

杉並区との主な交流

◇国内子ども交流事業

平成2年度から、両自治体の小学4～6年生が夏休み中、それぞれの地域を訪れ、生活や文化に対する理解を深めています。区内では、街歩きや観光、町内では、マスつかみ取り体験やハッ場ダム見学をしています。（同事業は、名寄市とも実施）

◇公衆浴場組合による東吾妻町温泉利用事業

杉並浴場組合では、気軽に温泉を楽しんでもらおうと、平成24年から、道の駅あがつま峡の日帰り温泉施設「天狗の湯」の源泉を区内の銭湯に運ぶイベントを実施しています。

◇東吾妻町・杉並区バレーボール交流会

平成4年に始まった「すぎなみ・あがつまママさんバレーボール交流会」が発展し、スポーツを通じた親睦と友好の輪を広げるため、平成7年から他の交流自治体も招いて相互開催しています。



熱戦を繰り広げる選手たち

平成元年（1989）8月6日旧吾妻町と「友好自治体協定」締結
[平成18年（2006）8月26日市町村合併で東吾妻町として再締結]
平成7年（1995）10月14日旧吾妻町と「防災相互援助協定」締結
[平成18年（2006）10月10日市町村合併で東吾妻町として再締結]



新潟県小千谷市

- ◆面積：155.19km²
- ◆人口：34,463 人（令和 3 年 2 月 26 日現在）
- ◆交流の始まり：井草に小千谷市学生寮がある縁で、区内イベントへの参加や区立公園への錦鯉寄贈などの交流をきっかけに協定を締結しました。
- ◆名産品：へぎそば、魚沼産コシヒカリ、小千谷縮
- ◆観光スポット・イベント：錦鯉の里、牛の角突き、片貝まつり、おぢや風船一揆

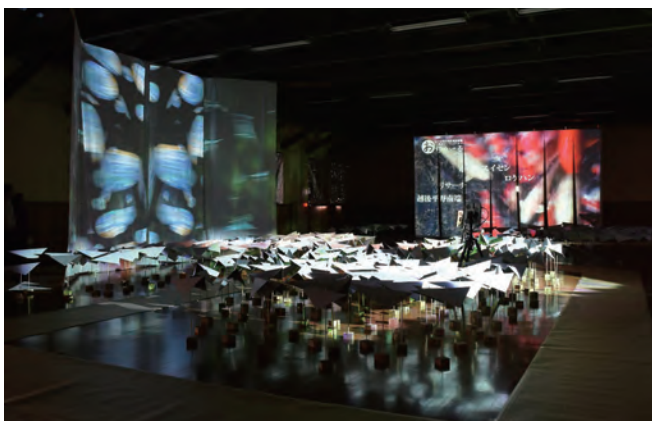


福島県北塩原村

- ◆面積：234.08km²
- ◆人口：2,657 人（令和 3 年 3 月 1 日現在）
- ◆交流の始まり：村の豊かな自然や観光資源を活用し、区民の生活に潤いを与え、村の地域活性化につなげるために協定を締結しました。
- ◆名産品：会津の山塩、花豆（缶詰）、ジュンサイ
- ◆観光スポット・イベント：五色沼、^{ひばらこ}檜原湖、^{うらぼんだい}桜峠、諸橋近代美術館、裏磐梯雪まつり

杉並区との主な交流

- ◇おぢやフェア（物産展）
井草にある小千谷学生寮の敷地内で、毎月 1 回開催されています。寮生が販売のお手伝いを行い、へぎそばや新鮮野菜など名産品を販売しています。
- ◇すぎなみ地域おこし協力隊
区内在住・在勤・在学者が一定期間を利用して交流自治体の地域おこし活動を行う事業の一環として、平成 29 年から阿佐ヶ谷美術専門学校の生徒が小千谷市で活動しています。錦鯉など小千谷市をテーマにした現代アートシアター展の開催や市内施設のモニュメント制作を行いました。
- ◇おぢやクラインガルテン区民利用促進
小千谷市にある滞在型農園クラインガルテンふれあいの里について、区主催の農にふれあう講座の受講生に説明会を実施しています。これまでに延べ 20 組の区民利用実績があります。



小千谷市開催の現代アートシアター展

平成 16 年（2004）5 月 12 日「災害時相互援助協定」締結

杉並区との主な交流

- ◇まるごと保養地協定
区民は生活に潤いを得られ、村は地域の活性化を図れるよう、北塩原村を区の保養地とする協定を結んでいます。協定により区民は、村内で宿泊や土産を購入した際、割引を受けられます。
- ◇フレンドシップスクール
区内の新中学生が、平成 24 年度から、稲の苗を手植えなどの自然体験をしています。（同事業は、東吾妻町や小千谷市でも実施）
- ◇支援バスツアー
東京電力福島第一原発事故に伴う風評被害払拭のため、平成 24～27 年、区内の学生が「裏磐梯雪まつり」をお手伝いするバスツアーを実施。平成 25 年には、村の観光大使・シンガーソングライターの小椋佳と日本フィル弦楽四重奏団の音楽会や会津観光が楽しめる復興応援バスツアーも開催されました。



地域住民と力を合わせるツアー参加者など

平成 16 年（2004）11 月 1 日「まるごと保養地協定」締結
平成 24 年（2012）2 月 25 日「災害時相互援助協定」締結



福島県南相馬市



◆面積：398.58km²

◆人口：52,680 人（令和 3 年 3 月 1 日現在）

◆交流の始まり：少年野球を通じた民間でのスポーツ交流の積み重ねを背景に、災害時相互援助協定を締結しました。

◆名産品：日本酒「御本陣」、アイスまんじゅう

◆観光スポット・イベント：大悲山だいひざんの石仏、桜井古墳公園そうまのまおい、相馬野馬追、サーフィン、火伏まつり



東京都青梅市



◆面積：103.31km²

◆人口：131,895 人（令和 3 年 3 月 1 日現在）

◆交流の始まり：昔から青梅街道で繋がり、青梅市内に杉並区の福利厚生施設（旧青梅寮）があったことから協定を締結しました。

◆名産品：青梅せんべい、日本酒「澤乃井」

◆観光スポット・イベント：御岳山、塩船観音寺、青梅マラソン



杉並区との主な交流

◇自治体スクラム支援会議

東日本大震災で被災した南相馬市の支援のため、平成 23 年 4 月に区が災害時相互援助協定を締結している自治体と立ち上げた会議です。現在、万が一の発災に備えて、支援体制の確立を図るなど、参加自治体全体の防災力向上に取り組んでいます。

◇区職員派遣

南相馬市が東日本大震災で甚大な被害を受けたことから、区では平成 23 年の発災から復興支援のため区職員を継続して派遣しています。

◇野球交流

旧新泉小学校（新泉和泉小学校）と石上第一小学校（南相馬市）の両学区の野球チームが昭和 49 年から交流試合を開催しています。また、平成 23 年に始まった区と台湾台北市の中学生野球交流の輪にも南相馬市の子どもたちが加わっています。



多数の交流自治体が参加した野球大会

平成 17 年（2005）5 月 27 日 旧原町と「災害時相互援助協定」締結
[平成 19 年（2007）2 月 19 日 市町村合併で南相馬市として再締結]

杉並区との主な交流

◇施設割引サービス

区民が市内の宿泊施設や美術館、温泉施設などを利用する際に、割引サービスを受けられます。

◇市民・区民限定イベント

市民・区民限定で行われるイベント「青梅市文化財ハイキング」が開催されています。市内の文化財を歩いて巡り、青梅市文化財保護指導員の解説により青梅に関する知識を深められます。毎年、区民も参加しており、市民との交流を深めています。

◇すぎなみ地域大学「森林ボランティア育成講座」

市との共同企画講座です。受講生は市内の山林で間伐、下草刈り、枝打ちなどの実習に臨み、森林整備の基礎知識や技術を学びます。講座修了後は青梅市の森林保全を行うボランティア団体に加入するなどして活動しています。



青梅市内の森で植林する人々

平成 21 年（2009）5 月 21 日「交流に関する協定」締結
平成 23 年（2011）8 月 28 日「災害時相互援助協定」締結



東京都武蔵野市



- ◆面積：10.98km²
- ◆人口：147,492人（令和3年3月1日現在）
- ◆交流の始まり：東日本大震災を踏まえ、災害が発生した際に、隣接自治体として相互に支援するため協定を締結しました。
- ◆名産品：うどん、武蔵野地粉うどん、吉祥寺辣油
- ◆観光スポット・イベント：井の頭恩賜公園、武蔵野プレイス、武蔵野アール・ブリュット

杉並区との主な交流

◇合同安全パトロール

毎年10月ごろに、隣接自治体の武蔵野市・三鷹市・杉並区が協力して合同安全パトロールを展開しています。目の届きにくい区境・市境を中心に見回り、犯罪を未然に防ぐ取り組みを行っています。



合同パトロールの様子



武蔵野プレイス

平成23年(2011)12月20日「災害時相互協力協定」締結



山梨県忍野村



- ◆面積：25.05km²
- ◆人口：9,704人（令和3年2月28日現在）
- ◆交流の始まり：豊かな自然の中で体験学習を行える区立小学校の校外学習施設「富士学園」を設置したことを契機に協定を締結しました。
- ◆名産品：そば、とうもろこし、富士山の湧水
- ◆観光スポット・イベント：忍野八海、忍野しのびの里、森の中の水族館、富士忍野高原トレイルレース

杉並区との主な交流

◇写真展

村が毎年開催している「富士忍野グランプリフォトコンテスト」の入賞作品を、平成26年から区役所「区民ギャラリー」で展示しています。また、みずほ銀行区内5店舗「まちなかギャラリー」にも同作品が平成28年から飾られ、多くの人々が鑑賞しています。

◇座の市での「食」のPR

座・高円寺の劇場前広場で、毎月第3土曜日に開催されている食べ物市において販売される忍野村の「糖度が高いとうもろこし」は、リピーターが多い人気商品です。（名寄市や南伊豆町も出店）

◇富士学園

大自然に囲まれた「富士学園」は、大きな体育館や研修室もあり、学習や合宿に利用されています。区民の方が利用する場合は、宿泊費の補助制度があります。



区役所区民ギャラリー開催の忍野村写真展

平成24年(2012)8月27日「災害時相互援助協定」締結



静岡県南伊豆町



◆面積：109.94km²

◆人口：7,989 人（令和3年3月1日現在）

◆交流の始まり：区立小学校の病虚弱児童対象の「南伊豆養護学園」を設け、その後校外施設「弓ヶ浜学園」を設置したことを契機に協定を締結しました。

◆名産品：伊勢海老、金目鯛、温泉メロン、いちご

◆観光スポット・イベント：弓ヶ浜海水浴場、石廊崎、いろろぎきみなみの桜と菜の花まつり



杉並区との主な交流

◇子ども漁村交流事業

平成27年から、区内の小学4～6年生を対象に、自然豊かな南伊豆町の生活を体験してもらうために行われています。地元の人々との交流や干物づくり、海上スポーツなど様々な漁村体験を行っています。

◇就労支援事業の受け入れ

就労を目指す若者等を対象に合宿型就労体験事業の受け入れを行っています。2泊3日で地元の方々の協力のもと、農業や漁業体験をしています。

◇特別養護老人ホーム「エクレシア南伊豆」

両自治体の地域課題解決のため、平成30年3月に全国初の自治体間連携による特別養護老人ホームを南伊豆町に開設しました。豊かな自然に囲まれ、居室が広く、区内の特養にはない余裕のある住環境です。



南伊豆の海でシーカヤックをする様子

平成24年(2012)9月14日「災害時相互援助協定」締結



東京都小笠原村



◆面積：父島 23.45km²、母島 20.21km²

◆人口：父島 2,124 人、母島 445 人

（令和2年4月1日現在）

◆交流の始まり：自然体験学習や現地の方々との交流を通じ、豊かな人間性と環境保全意識を持つ生徒を育成することを目的に宣言を取り交わしました。

◆名産品：パッションフルーツ、マンゴー、ラム酒

◆観光スポット・イベント：南島、ドルフィンスイム、ナイトツアー、小笠原サマーフェスティバル



杉並区との主な交流

◇中学生小笠原自然体験交流

世界自然遺産である小笠原村の貴重な自然体験や自然に育まれた文化を通して、子どもたちの豊かな人間性を育み、各学校・地域における環境保全活動の推進役となる世界的視野で持続可能な社会を考えることができる生徒の育成を目的として、平成24年度に開始されました。小笠原村では、シュノーケルなどの自然体験学習やビーチクリーニングなどの環境保全活動を行っています。

◇まるごと小笠原フェア

日本への返還50周年を記念し、小笠原村の魅力や歴史を区民に伝えるためのイベントが、平成31年3月に区役所内で開催されました。イベントでは、小笠原村の写真展示や名産品販売、小笠原古謡コンサートなどが行われました。



小笠原の海でシュノーケル体験をする様子

平成25年(2013)7月26日「子ども自然体験交流事業推進宣言」を取り交わす

国外の 交流

杉並区では、国際理解の増進を目指して、教育・スポーツ・文化など様々な分野で海外の都市交流を行ってきました。現在では、杉並区と交流する国内の交流自治体と海外の都市との観光や文化などの新たな交流の発展を視野にいたれた取り組みを進めています。

協定締結周年事業



瑞草区との協定締結 25 周年式典

友好都市協定を締結しているウィロビー市と瑞草区とは、5 周年毎に記念式典の開催や先進事例の情報交換、公共施設の視察等を行っています。

海外文化の理解促進



海外文化セミナーでの講演会の様子

毎年、区民の海外文化の理解促進のために杉並区交流協会と共催で海外文化セミナーを開催しています。観光・文化に関する講演や展示、伝統芸能の披露、各国の伝統料理の販売などを行っています。

ウィロビー市(オーストラリア連邦ニューサウスウェールズ州)



◆面積：22.43km²

◆人口：81,189 人 (令和元年 6 月 30 日現在)

◆交流の始まり：日本企業や日本人居住者が多く親しみ易い、時差もほとんどない、英語圏の国であるが環境面の類似性があることから協定を結びました。

◆観光スポット・イベント：ノースブリッジバス、ヘブンアンフィシアター、シュガーローフポイント

杉並区との主な交流

◇中学生海外留学事業 (次世代育成基金活用事業)

平成 4 年から、区内の中学生が夏休みを利用してウィロビー市を訪問し、国際理解を深めています。子どもたちの豊かな人間性を培い、国際社会において必要な資質の形成を目指すことを目的に実施しています。不定期ではありますが、ウィロビー市からも学生が杉並区を訪れています。

◇ラグビー交流 (民間交流)

杉並区少年ラグビースクールは、平成 10 年からウィロビー市にあるチャッツウッド・ハイスクールのラグビー部やウィロビー・シティ・ジュニア・ラグビー・クラブとの交流を続けています。子どもたちは互いの都市を訪れ、ラグビーの親善試合やホームステイを通して相互理解と友情を深めています。



市内の中学生との交流会の様子

平成 2 年 (1990) 5 月 11 日「友好都市協定」締結

瑞草区 (大韓民国ソウル特別市)



◆面積：47.00km²

◆人口：430,826 人 (令和元年 12 月 31 日現在)

◆交流の始まり：人口規模や住宅都市などの類似点に加え、日本に近い国外の自治体として幅広い交流の可能性があるので、協定が締結されました。

◆観光スポット・イベント：芸術の殿堂、国立国学院、セビッソム、瑞草ソリプルフェスティバル

台北市 (台湾)



◆面積：36,000km²

◆人口：約 23,548,633 人 (令和 3 年 1 月現在)

◆交流の始まり：東日本大震災を契機に杉並区と交流自治体の福島県南相馬市の中学生野球チームが台湾に招待され、現地の中学校との親善試合が行われたことをきっかけとし宣言を取り交わしました。

◆観光スポット・イベント：台北 101、中世記念堂、故宮博物院、九份、夜市、台湾人形劇

杉並区との主な交流

◇職員交流研修生の派遣・受入れ

平成 26 年から、友好都市としての相互理解と信頼のもとに、半年から 10 か月程度の期間、相互に職員研修生の派遣・受入れを行っています。

◇語学ボランティアスキルアップ講座

瑞草区からの交流研修生が、同講座の「区の防災対策と外国人への支援」にパネリストとして参加しました。区在住外国人の一人としてパネルディスカッションを行い、国によって災害の種類や防災の考え方が違うこと、災害時の外国人への情報提供の方法について話をしました。

◇異文化理解講座

瑞草区からの交流研修生が、韓国の言語、食文化、恋愛と結婚などを紹介し、日本と韓国の文化の違いについて講演を行いました。



職員交流研修生ソグオンさんの講演

平成 3 年 (1991) 12 月 9 日「友好都市協定」締結

杉並区との主な交流

◇中学生の野球交流

平成 23 年 12 月に「第 1 回交流自治体中学生親善野球大会」が、台湾にて開催しました。東日本大震災で被災した南相馬市の中学生も台湾に招待され、台北近郊の中学生 6 チームと杉並区・南相馬市の中学生チームが対戦しました。以降、台湾と杉並区で相互に野球大会が開催されています。他の交流自治体にも交流の輪が広がり、親交を深めています。

◇東京高円寺阿波おどり団の派遣

国立台湾戯曲学院の祝賀公演での踊りを契機に「文化・芸術の相互交流推進宣言」を取り交わし、以降 2 年に一度、台湾で阿波おどり公演を行っています。

◇まるごと台湾フェア

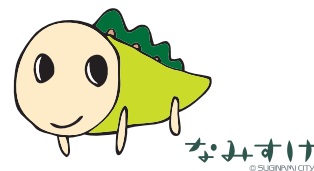
台湾グルメやグッズの販売、台湾映画の特別上映会などを行っています。毎年多くの方が来場し、台湾の文化について、理解を深めています。



台湾の慈恵宮での阿波おどり披露

平成 25 年 (2013) 12 月 28 日、台湾で「交流推進宣言」を杉並区と台湾が取り交わす

杉並区の紹介



◆面積：34.06 km²

◆人口：572,257人（令和3年3月1日現在）

◆観光スポット・イベント：大田黒公園、杉並アニメーションミュージアム、東京高円寺阿波おどり、阿佐谷七夕まつり、すぎなみフェスタ

杉並区の地名は、江戸時代の初め、領地の境界のしるしとして青梅街道に沿って植えたとされる、杉の並木があったことに由来します。

東京23区の西側に位置し、東は中野区・渋谷区、西は三鷹市・武蔵野市、南は世田谷区、北は練馬区と隣接しています。都心から近いこともあり、外国人を含む様々な方が暮らしています。ライブハウスやギャラリーなども多く、文化・芸術が盛んです。また大きな公園や庭園も多く、自然に恵まれているのも魅力の1つです。

交流自治体情報紙「てくてく」

交流自治体情報紙「てくてく」では、各自治体の食・文化・自然・歴史・ものづくりなど、それぞれ特色ある「とっておきの情報」を発信しています。バックナンバーは杉並区公式ホームページでご覧になれます。ぜひ本紙を参考に、杉並の交流自治体へ訪れてみてください。



コミュかるショップ

交流自治体の名産品や杉並区公式キャラクター「なみすけ」のグッズを販売しています。年間を通して季節やイベントをテーマとした特別フェアを開催しています。ぜひお立ち寄りください。（場所：区役所中棟1階、営業時間：午前9時～午後4時30分 土曜・日曜・祝日・年末年始休業）



杉並区の交流自治体 –自治体の交流で広がる豊かな社会–

令和2年（度）版
令和3年3月発行

編集・発行 杉並区区民生活部文化・交流課

〒166-8570 杉並区阿佐谷南一丁目15番1号

TEL (03)3312-2111 (代)

登録印刷物番号

02-0089